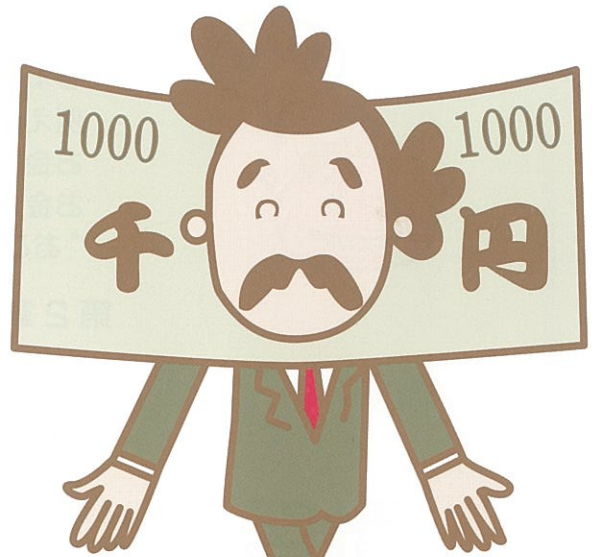
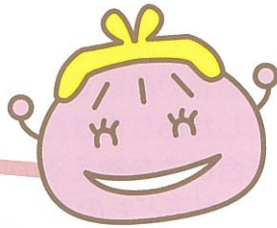




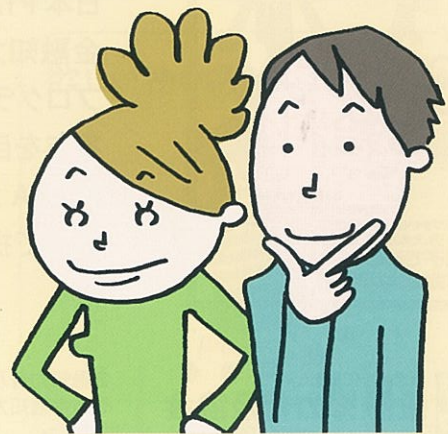
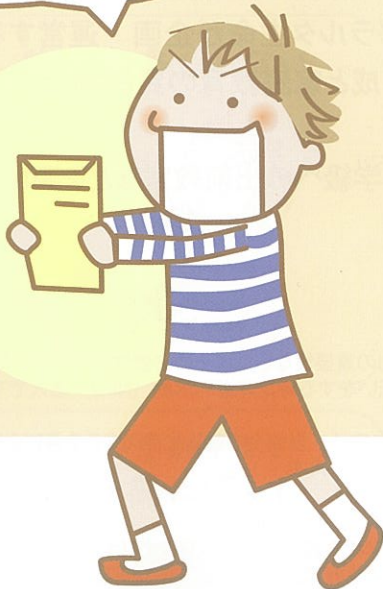
キッズデザイン賞  
 キッズコンシューマー  
 サポート部門  
 審査委員長特別賞 受賞作品!



**未来**を担う  
 子どもたちのために

# 「おこづかい」が 子ども的人生を変える

ぼくのお金!



監修



特定非営利活動法人  
**金融知力普及協会**  
 Association for the Promotion of Financial Literacy

企画・運営



**Gibraltar**  
 ジブラルタ生命

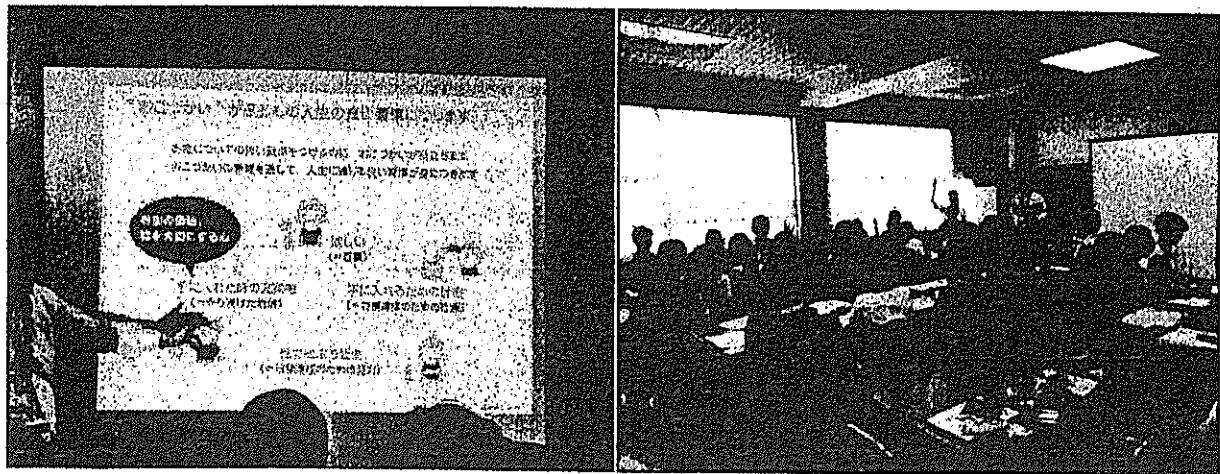
平成30年9月18日(火)

保護者の皆様へ

世田谷小学校 PTA 会長 今給黎ちはる  
家庭教育学級委員会委員長 桐田ひとみ

第2回 家庭教育学級 実施報告書  
「おこづかい教育 出前講座」

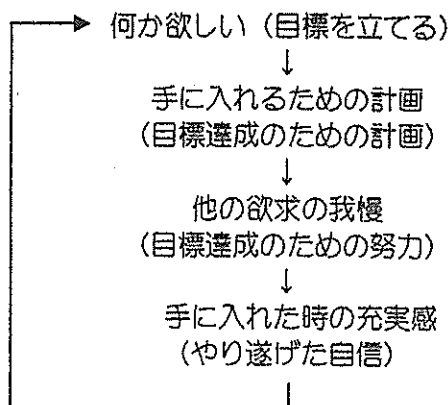
9月8日(土)、37名(保護者36名・世田谷区教育委員会事務局1名)参加のもと、シブラルタ生命保険株式会社の石堀真也講師をお迎えし、日本PTA全国協議会推薦図書「8歳からのお給料袋」の内容を中心に、「おこづかい」が子どもの人生を変える」というテーマで、おこづかい教育の講座を開催致しました。グループディスカッションを交えながら、子どもの未来のお金について学び、楽しい講座になりましたのでご報告致します。



大きく4つのテーマに分けて講義が始まりました。

① おこづかいは子どもの良い人生の習慣

お金と自分の欲望をコントロールする力を身につける事が重要！では、どうやって身につけさせるのでしょうか？おこづかいをきっかけとして、何を買うか考えさせる、我慢させる、使いすぎて失敗してそこから学ぶ、うまくできたら褒める！⇒お金との付き合いを教えるのは「しつけ」と同じである。



左の図に示した4つのステップを、親と子どもと一緒に踏み、繰り返すことで、お金の価値・物を大切に  
する心が養われ、人生に通じる良い習慣が身につく。

子どもは親の鏡です。親と同じことをするので、親自身も生活費などのお金をきちんと管理することが大切。

② さあ、始めよう！何かを買うことに興味を持ったら、おこづかいを始めるチャンス！

習慣を身につけるには、親の強い真剣さ・覚悟が必要。1年を目標に続けることが大切となる。

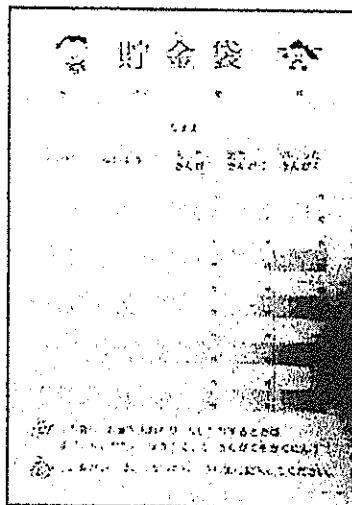
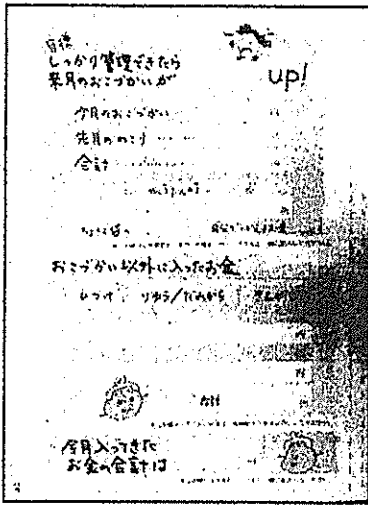
では、具体的にどんなことをするの？準備するものは何でしょうか？キーワードはこの4つにあり！！

おこづかい袋	ちょきん袋	お財布	子ども名義の銀行口座
--------	-------	-----	------------

「おこづかい袋」と「ちょきん袋」を作成して、お金を子ども自身に管理させる。親は一切口出ししない。下記画像を参考にし、封筒に項目を書いて作成する、または表紙を作成して封筒に貼り付けて使う。

【例：おこづかい袋の表紙】

【例：ちょきん袋の表紙】



「おこづかい袋」は、毎月新しい袋に新しいおこづかいを入れて渡す。一度渡した後は、子どもがおこづかい帳代わりに、この封筒を使って残高を管理する。自分のお財布にお金を入れて買い物をさせる。何を買うのかは子どもに任せる。買い物をしたときにレシートを必ずもらい、この袋に入れて管理。

「ちょきん袋」は、毎月のおこづかいと先月からのくりこしの合計の約3分の1を入れる。お年玉や臨時収入もこの袋で管理。

5000円程度貯まったら子ども名義の口座へ預け入れる。月末に「おこづかい会議」を開き、月の支出を親と一緒に計算。ちゃんと管理ができていたら褒めまくる！ここで大切なのは、おこづかいに対して助言するのは、「おこづかい会議」の時だけ。たとえ使いすぎて失敗してもペナルティはなし。失敗から学ぶ。

③ こんな時はどうする？グループディスカッションで解決。知りたい！お隣さん家のおこづかい事情  
ディスカッションでは貴重な意見交換ができました。本の内容と合わせてご報告致します。

(保) = 保護者からの意見 (本) = 本に書いてある内容から抜粋したもの

値段の高いものをねだってきたら？	お手伝いにお駄賃をあげるべき？
<ul style="list-style-type: none"> <li>誕生日やクリスマスに買ってあげる (保)</li> <li>貯金はこういう時のためにあるのだから、貯金を頑張るように言う (本)</li> <li>子どもの成長に繋がると親が判断したら半額だす (本)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>お金の代わりに、親が作ったメダルをあげている (保)</li> <li>お手伝いは家族の義務だから、あげる必要はなし (本)</li> <li>子どもから〇〇をするから、おこづかいを頂戴と言ってきたら、ビジネスマインドを養うチャンス！価格が適正なら、あげてもよし (本)</li> </ul>
良い成績のご褒美におこづかいをあげるべき？	お年玉はどうする？
<ul style="list-style-type: none"> <li>あげていない。ご褒美として外食をする (保)</li> <li>勉強は子どもの本業なので、あげる必要はない (本)</li> <li>何か体験をするご褒美…旅行とか普段食べないものを食べに行く体験を与える (本)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>貯金をする (保) (本)</li> <li>お爺ちゃんが子どもに渡すのではなく、親に渡してくる場合は金額を子どもに教えず、そこから一部を渡す (保)</li> <li>全額自由にさせてはいけない。貰ったうちの一万円程度を上限として自由に買い物させる (本)</li> </ul>

④ まとめ…なぜ、おこづかいが子どもの人生を変えるの？

昨今、お財布を持つ必要はなくなり、電子マネーで何でも解決できる傾向にある。しかし便利な反面、お金を使用した感覚を失い、欲望のコントロールをできなくなることが懸念される。子どものうちから「お金」でおこづかいを渡して、子ども自身が管理をすることにより、金銭感覚が身につく、自分で買ったものを大切にすることを養うことができる。おこづかい教育は、未来のお金に対する基礎を身につける第一歩。ぜひ、今から実践してみたいかがでしょうか。